

## 諮 問 書

佐市環政第303号

令和4年8月4日

佐賀市個人情報保護審査会  
会長 井上 亜紀 様

佐賀市長 坂井 英隆



佐賀市個人情報保護条例第8条第1項第5号の規定に基づき、外部提供の可否について、下記のとおり貴審査会の意見を求めます。

### 記

#### 1 諮問内容

九州大学大学院工学研究院附属アジア防災研究センターが、出水時に流出した漂流物の回収効率を向上のための調査研究を行うにあたり、当課所管施設に設置したライブカメラの映像を利用することについて

#### 2 提供先

九州大学大学院工学研究院附属アジア防災研究センター  
沿岸海洋学工学研究室（以下、「九州大学大学院沿岸海洋学工学研究室」という。）

#### 3 外部提供を行う個人情報の内容

東よか干潟ビジターセンターひがさす（以下、「ひがさす」という。）に設置しているライブカメラの映像。

なお、ひがさすのライブカメラ映像は、東よか干潟のPRと干潟環境の保全意識を高めるために設置しており、干潟の風景が主なものである。

#### 4 外部提供の目的

近年、有明海では大雨後に流木等の漂流物が発生することが深刻な問題になっている。漂流物の流木等は、主に目撃情報をもとに国等が実施しているが、潮流によって漂流するため回収できないなどの問題がある。

そこで、九州大学大学院沿岸海洋学工学研究室において、ライブカメラの映像を活用した漂流物データの取得を行い、漂流予測シュミレーションモデルを開発し、回収効率の向上につなげたい。

## 5 映像の活用

ライブカメラ映像から漂流物の流れを観察し、現在構築している漂流予測シミュレーションモデルを現実に近いものに改良する。また、東与賀海岸は漂流物が集積しやすい場所であるため、出水が生じてから、いつ、どのような気象条件の場合に漂流物が海岸に集積するかを画像から把握する。

## 6 外部提供の方法及び提供した映像の取扱

九州大学大学院沿岸海洋学工学研究室からの依頼により、大雨等の出水時に漂流物の発生が予想される特定された期間の映像を、本市環境政策課職員がクラウドからCD-Rに取り出し、提供する。

九州大学大学院沿岸海洋学工学研究室は、映像活用後にCD-Rを本市環境政策課に返却する。

外部提供から本市への返却までの期間は、約1か月を想定している。

## 7 外部提供を希望する映像の期間

令和4年8月1日～令和4年10月31日

※出水時の映像のみ

## 8 個人情報の所管課

環境部 環境政策課

## 9 添付資料

- ・個人情報外部提供申請書
- ・九州大学大学院沿岸海洋学工学研究室研究概要「出水時に流出した漂流物の回収効率の向上に資する追跡調査」

以上

様式第5号（第5条関係）

個人情報外部提供申請書

令和4年7月26日

佐賀市長 坂井英隆 殿

住所 〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744  
所属・氏名 九州大学大学院工学研究院・附属アジア防災研究センター  
沿岸海洋工学研究室 教授 山城 賢  
電話番号 092-802-3416

保有個人情報の外部提供を受けたいので、市長が取り扱う個人情報の保護に関する規則第5条第1項の規定により、次のとおり申請します。

|             |   |
|-------------|---|
| 個人情報取扱事務の名称 | 東よか干潟ビジターセンター防犯カメラ及びライブカメラ管理事務  |
| 保有個人情報の内容   | ライブカメラ画像データ   |
| 利用目的        | 有明海における漂流物の観測   |
| 利用区分        | <input checked="" type="checkbox"/> 電子計算機処理に係る保有個人情報<br><input type="checkbox"/> 手作業処理に係る保有個人情報 |
| 管理方法        | 申請機関において漂着物に関するデータを収集後、提供データを返却する。  |
| 利用期間        | 2022年8月1日～2022年10月31日   |



作成日：2022年7月26日

## 出水時に流出した漂流物の回収効率の向上に資する追跡調査

九州大学大学院工学研究院  
附属アジア防災研究センター  
沿岸海洋工学研究室  
教授 山城 賢

### 研究背景・目的

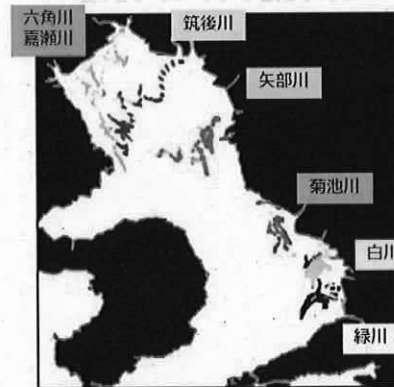
近年、有明海・八代海において流木等の漂流物問題が深刻化している。現在、出水時に河川から流出した流木等の漂流物は、主に目撃情報を頼りに調査観測兼清掃船と地元の漁業者の方々に回収作業にあたっているが、回収船が目撃場所に到着したときには潮流によって流されており発見できないことも少なくない。

そこで、当研究室では、流木の挙動を予測する漂流予測シミュレーションモデルを開発し、回収効率の向上に繋がりたいと考えているが、構築したモデルの精度検証に十分な漂流物データ（いつどこに流れたか）が存在しない。したがって、漂流物データの取得のためにライブカメラ映像を利用したい。



有明海に流出した漂流物

出典：毎日新聞デジタル（2017/7/9）



当研究室による漂流予測シミュレーションの例

### 映像の利用

提供いただいたライブカメラ画像から漂流物が流れる様子を観察し、現在構築している漂流予測シミュレーションモデルをより現実に近いものに改良する。また、ライブカメラの設置場所は漂流物が集積しやすい場所であるため、出水が生じてからいつ・どのような気象条件の場合に漂流物がこの場所に集積するかを画像から把握する。